

一般社団法人能水会

第 12 号

2013年9月発行

ご 挨拶

一般社団法人能水会
会長 岩崎 昇 (新16製)

能水会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと、お喜び申し上げます。日頃より会の活動に深いご理解と、ご協力を賜り心より御礼を申し上げます。産業教育の振興に寄与する事を目的とした本会の目的事業であり、産業教育を支えるための事業として「教育活動支援制度」を理事会並びに定時代議員総会での決議を経て始動いたしました。



昨年9月発行の会報誌「日本海第11号」を通じ、ご協力をお願いを申し上げましたところ、会員の皆様並びに大変厳しい景況の中、企業の方々に、ご賛同を頂き基金の支援にご協力を賜り心より厚く御礼を申し上げます。

皆様からお預かりいたしました浄財につきましては、少子化が進行し学校への志願者の確保が難しくなる中で受験希望者が、本制度を受験高校の選択肢のプラス要因として活用され、一人でも多くの受験希望者が増え優秀な生徒諸君が、安心して学び、研究活動や倶楽部活動に勤しみ、明日の産業界を担う後輩の育成の為に活用をして行く所存でございます。

母校では、山岸学校長を中心にして時代の変化に対応するため、より実践的な水産教育を展開出来るよう学校づくりに邁進されております。模擬会社を設立し「オンラインワンステップアップ事業」に取り組み全国の高等学校では、はじめての国際的衛生管理システムであります「HACCP」の認定を取得され、高質且つ安全性の高い実習製品を製造：販売し高利益を創出され学校の経費軽減に努められ、泉田新潟県知事：高校教育課より高い評価を戴いております。この様な水産海洋系の専門高校の特徴づくりに懸命に頑張っておられる母校に「産業教育支援制度」を継続事業として母校へ支援を行って参ります。今後共、ご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

今、本会が抱える課題は、少子化の進行により母校への受験希望者が減少し、地方財政の緊縮から学校再編に傾斜している現実をしっかりと直視して行かなければなりません。ご存知の通り、福井県の小浜水産高校、石川県能都北辰高校は、普通高校に統合され北陸エリアで水産海洋系単独のプロパー高校は、我が母校のみとなりましたが、私たちは、この現実を看過する訳には参りませ

ん。伝統誇る母校に歴史を重ね、未来永劫に継承して行く事こそが、同窓生に課された至極当然の使命と考えております。

母校では、学校長はじめ教職員の皆様が県内は、勿論のこと長野、群馬、埼玉、富山県の中学校に母校のPRと生徒募集に奔走されております。遠方から入学される為の男子寄宿舎「鷗雛寮」の管理運営は、「一般社団法人能水会」が担っており、大事な役割を果たしております。女子生徒の下宿の斡旋も大きな課題であります。学校と一体になって「下宿斡旋検討委員会」なるものを、検討し提起して参りたいと考えております。会員の皆様に於かれましては、女子生徒の下宿斡旋及びび生徒募集のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

同窓生が心をつにして母校が永遠に存続し輝き続ける為に、ご理解ご協力を宜しくお願いいたします。

当会の運営には、会員相互が情報を共有する事が、不可欠と思えます。学校に、ご協力を頂き本部事務局長のご努力によって懸案でありましたインターネットで「一般社団法人能水会」のブログを立ち上げる事になりました。ITの活用で、ツイッターやフェイスブックに慣れ親しむ若い会員の皆様との距離感を縮め、母校と会員相互の情報の架け橋となり、一体感の醸成を図り効率的な運営に努めてまいります。皆様からの情報やご意見を、お寄せ下さいますよう宜しくお願い致します。

新制16回卒 (S39年)「卒後50周年同期会」開催に当たり貴重な会費の中から母校への「産業教育支援制度」基金に浄財の拠出を頂き、各位の心温まるご厚情に紙面を、お借り致しまして心より感謝と御礼を申し上げる次第です。

会員の皆様には、益々のご健勝とご多幸を心よりご祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。

御 挨拶

新潟県立海洋高等学校長 山岸 克夫

赴任後、2年目の年を迎えました。昨年度に引き続きよろしくお願い申し上げます。海洋高校は、今年度、創立115年目、改称後21年目を迎えました。

能水会の皆様からは、鷗雛寮の管理運営、生徒会への補助、相撲部への応援など物心両面から御支援御協力をいただいておりますことに衷心より感謝申し上げます。



さて、ここ数年来、募集定員が埋まらず、不本意な思いがあります。糸魚川市における人口減少の影響で、今年度入試においては、市内中学3年生が50名以上も減少し、市内3校はすべて募集定員割れとなりました。最も大きな影響を受けたのは本校でした。事前にわかっていたことでもあり、「学校案内」を新しいものとし、生徒募集ポスターを作成・配付するなどし、県内遠隔地や県外への生徒募集に昨年度以上に取り組みましたが、思うように数を伸ばすことができませんでした。ただ、県外から7人の入学生が来てくれたことは収穫でした。さらに、今年度は、学校の情報発信のために同窓会からも御協力をいただきホームページを新しく見やすいものに更新しました。(ぜひ、ご覧ください。)また、制服も来年度1年生からリニューアルします。ともかく、一人でも多くの生徒に来てもらえるよう可能な限り動いてみたいと思っております。

そして、生徒募集のためにも欠かすことのできないのが、今年度19年目を迎える海洋丸の代船建造です。船は、水産高校のシンボルであり、乗船実習は実習のなかでも最も水高らしい重要な位置を占めるものと捉えております。この4月に閣議決定された新しい「海洋基本計画」に照らしても、実習船のもつ意味は大きくなってきているものと判断しています。県の方へはすでに要望しておりますが、現時点では明確な回答をいただいております。今後とも代船建造がぜひとも実現するよう取り組んでまいりたいと思います。

代船建造に向け 小川和雄新潟県議会議長宅訪問 副会長 伊藤 清正

「海を愛し、海に学び、海と生きる」をスローガンに、全国の海と水に学ぶ行動計画(アクションプラン)が打ち出されて6年が経過した。これは、5つの目標と10の具体策・具体的行動からなるものであるが、「我々は、かけがえのない海を護り、命を尊び、海の恵みを活用する豊かな人間性を備えた人材を育成する」といった宣言に基づいて作成されたものである。いわば全人教育を目指したものである。環境教育、生命の尊重、海の恵に感謝するなど、今の社会において最も求められている「豊かな人間性、生きる力」など、人間力・社会人基礎力の育成には水産・海洋教育は最適なステージが用意されている。

その中心をなすものが実習船教育である。明治44年、



初代実習船「白山丸」から越山丸にそして現在の海洋丸まで8代を数え、そこから輩出された幾多の人は日本の産業発展に大きく貢献した。しかし現在使用中の「海洋丸」は船齢19年、外観は美しいが、もはや老朽船。

夢と希望に満ちて入学した生徒諸君に夢とロマンを語るには古すぎる。新しい水産・海洋教育の展開には船が必要。船無くして水産・海洋教育はあり得ないのである。……と代船建造のお願いに小川議長宅を訪問した。

5月20日、山岸克夫校長と二人で幾つかの資料を用意し、代船建造の話しをまくし立てる予定であったが、訪問時間の70分間に訪問客7名、議長とはこうも多忙なものかと感じた。細かく説明する必要はまったく無く、全てお見通しであった。

日本は海洋立国である。海に乗り出さなくてはならない。海を生かさなければならぬ。新潟(上越沖)の海は魅力がある(メタンハイドレートを指す)知事自身も専門学校に力を入れているし代船建造も早めにしなくてはならないと考えているようだ。高井教育長にも話したい。ただし、同窓会も真剣に代船建造に動いていることを示す必要があるが、県に対し学校側から正式に話しを通す必要があると指摘された。……青少年に夢を与えなければならぬ。それには船だと力強く話された。(議長有難うございました)

……どのような代船建造になるのか。……

1 高等学校の船ではなく、20年先を見通した教育プランを全国に発信してもらいたい。豊かな国づくりは人材の育成あってこそなし得ることは我々同窓全ての願いである。

平成25年度定時社員総会及び 「教育活動支援制度」報告

能水会事務局長
渡辺 宏幸

平成25年度定時社員総会報告

平成25年6月15日に行われました、定時社員総会の様子について概要をご報告致します。

1 岩崎昇会長挨拶

平素よりご協力を頂いている会員の皆様に御礼を申し上げ、昨年度より行われている「教育支援制度」への募金に対し感謝を申し上げ、その募金が母校のために有効に使用されていることを上げられました。

母校においては、少子化の影響で定員割れの厳しい状況においても全国高校初である「HACCP」の認定を取得され、泉田新潟県知事をはじめ、教育委員会から高い評価を受けたことは誇りであり大変喜ばしいことと述べられました。また、恒常的な定員割れを防止するために教育支援制度を活用し生徒募集を始め様々な形で母校支援を行っていくと述べられました。

能水会の運営については、特に地元支部の活性化を急ぎホームページを活用し若い会員と距離感を縮め、会員同士の一体感の醸成を図り、効率的な運営に努め、新しい時代感覚に能水会自体も進化し、会員の皆様の要請に応えていかなければならないと述べられました。

2 山岸克夫学校長挨拶

平素より協力を頂いている能水会に対し感謝を申し上げ、校訓の質実剛健、進取力行、水産報国に則り、生徒育成にあたっていと述べられました。また、HACCP（国際的な品質管理システム）審査にレベル1で合格、相撲部の全国選抜相撲（高知）大会で団体準優勝（過去最高順位）等々学校の活躍をご報告されました。

今後とも同窓会の期待に添えるよう、能水魂を忘れずに取り組んでいく所存であると述べられました。

3 資格確認（定款第30条第1項及び2項）

総社員数 125名

出席26名、委任71名、合計97名

（社員（代議員）の出席が大変少ない状況です。地元周辺を除き、本部からは交通費の半額を支給しております。今年度よりも多くの代議員の方にご参加をいただけますようお願い申し上げます。）

4 黙 禱

平成25年度物故者に黙禱を行いました。

5 議長選出（定款第28条）

議長にはS25B小林 忠様が選出されました。

6 議事録署名人の指名（定款第31条第2項）

議事録署名人には、議長小林忠様、理事富田達治様、理事岡崎辰三様が選出されました。

7 議 事

議案第1号 社員（代議員）の選任・退任について（定款第5条第5項）

渡辺事務局長より、以下のことについて説明があった。

○体調不良、死去などで役員交代または退任の申し出があり。また、上越支部総会において、3名の退任がありました。

○現在、121人の社員がいるが、来年度以降、定員を割ってしまう恐れがあるので、特に地元支部より選出していきたい。

○議案第1号は承認された。

議案第2号 上越支部長の解任及び選任（定款第25条第3号）

渡辺事務局長より、以下のことについて説明があった。

○上越支部長原田氏から新たに伊藤春男氏が選出され、

貸借対照表

平成25年 3月31日現在

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
普通預金	116,222	812,258	▲ 696,036
定期預金	3,877,512	4,376,477	▲ 498,965
未収入金	120,000	120,000	0
流動資産合計	4,113,734	5,308,735	▲ 1,195,001
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
土地	274,413	274,413	0
基本財産合計	274,413	274,413	0
(2) 特定資産			
特定資産合計	0	0	0
(3) その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	274,413	274,413	0
資産合計	4,388,147	5,583,148	▲ 1,195,001
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	120,000	120,000	0
未払費用	22,919	5,225	17,694
納税引当金	58,400	70,000	▲ 11,600
流動負債合計	201,319	195,225	6,094
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	201,319	195,225	6,094
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計			0
（うち基本財産への充当額）	()	()	(0)
（うち特定資産への充当額）	()	()	(0)
2. 一般正味財産	4,186,828	5,387,923	▲ 1,201,095
（うち基本財産への充当額）	()	()	(0)
（うち特定資産への充当額）	()	()	(0)
正味財産合計	4,186,828	5,387,923	▲ 1,201,095
負債及び正味財産合計	4,388,147	5,583,148	▲ 1,195,001

理事会にて承認されました。

○議案第2号は承認された。

議案第3号 平成24年度貸借対照表及び損益計算書の承認について（定款25条第4号及び第34条第2項）

○渡辺事務局長、五十嵐会計より報告がなされた。

○修繕などは、地元の会員業者を利用して欲しいと要望があった。

○議案第3号は承認された。

報告 平成25年度事業計画書及び収支予算書報告

○渡辺事務局長、五十嵐会計より報告がなされた。

○会長は予算、決算についてどのようなプロセスでかわっているのか質問があった。

○細かい点や突発的なものについては、地元にいる副会長と事務局とが相談し、その後、会長に連絡・報告をしている。総額的なものは毎年決まっているので、あまり手を入れていかないが、今後は手を入れていく必要があると考えている、と副会長から回答があった。

○運営の仕方は間違えないで欲しいと要望があった。

○平成25年度予算書案で、寮の修繕費に50万円、予備費に19万円とあるが、修繕費は全額、県の負担なのかと質問があった。

○建物自体は県のものであるので、多額の修繕については県がやる。日常的な少額の修繕などはこちらがやっている、と回答があった。

○退寮者はどれだけ学校に残っているか、退寮した生徒は再入寮はできるのか、という質問があった。

○再入寮は今まで断っており、再入寮は現在の状況では考えていない。退寮すなわち、退学とはならないが、自分を直すことができず、退学へとつながっていく傾向にある。年度末に退寮した生徒はほとんど、学校に在籍している。退寮し、退学した生徒の中には、学校の教育内容が中学の時に聞いていたものと違う、ホームシックがひどくやめた生徒もいる、と回答があった。

8 その他

①旅費について

総会出席者等及び、役員会等などの旅費は、平成18年度に作成した、旅費算出基準により支給している。今後も、この基準により支給していくと、渡辺事務局長より説明があった。

②会報日本海について

伊藤副会長から、「会報日本海」の今までの活動内容と広告掲載、原稿のお願い、会費納入の継続の話があった。

以上、定時社員総会の報告を終わります。来年度の総会は26年6月14日土曜日を予定しております。

「教育活動支援制度」報告

「教育活動支援制度」に対し、多くの方よりご寄付を頂き、この場をお借り致しまして厚く感謝を申し上げます。平成25年3月31日現在、1,714,750円（企業12、会員771）のご寄付があり、準備金を合わせて1,935,896円の収入がありました。25年度には奨学・育英対象者が最終的には出ず、支出することはありませんでしたが、生徒諸君の活躍を支援するため604,617を支出致しました。内訳は相撲部全国大会優勝、カッター全国大会出場、相撲部屋入門、生徒会活動などに支出致しました。

学校では今年度、生徒募集に力を入れて行く方針ですが、それについても同窓会として支援していく考えであります。今後も、同窓会として学校支援を行って参りますので引き続き「教育活動支援制度」へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年度 教育活動支援制度収支計算書

平成24年4月1日～平成25年3月31日

科目	決算額	備 考
寄付収入	1,714,750	
受取利息	91	
前期繰越金	221,055	
収入計	1,935,896	
事業費	469,260	
①奨学支援	0	
②育英支援	0	
③学校支援	269,260	生徒会150,000 卒業証書用筒32,760 県人会冊子86,500
④クラブ研究支援	200,000	カッター部50,000 相撲部祝賀会100,000 入門競別50,000
旅費交通費	67,000	
通信費	21,944	
会議費	10,760	
租税公課	13	
事務費	34,275	
支払手数料	1,365	
支出計	604,617	
次期繰越金	1,331,279	

ホームページ開設について

永きにわたり懸案でありましたホームページ開設が、学校の協力の下、ついに実現致しました。能水会単独でのホームページ開設は事務局の職場柄及び費用面でなかなか実現できませんでした。ところが、昨年学校側にお願した所、学校のホームページ更新を機会に同窓会のページ新設の話があり費用を折半することで実現致しました。

「新潟県立海洋高等学校」で検索して頂きますと、母校のホームページが開き、トップページの右側に「同窓会」のリンクボタンをクリックして頂きますと同窓会のホームページが開きます。

内容は「会長挨拶」「役員紹介」「定款」「総会報告」「会報「日本海」」「事務局連絡」「同窓会広場」を設けました。

特に、「日本海」「同窓会広場」への原稿をお待ちしておりますのでメールにて事務局渡辺までお寄せ下さい。このホームページが会員の皆様の架け橋や情報交換の場になれば幸いです。是非ともご活用をお願い致します。

上越漁業協同組合
能生港
釣船 **大進丸**
船長 **中村英二**
(新19漁)

〒949-1351 新潟県糸魚川市大字能生小泊551
自宅電話 025-566-4073
船長携帯 090-4021-6477

ふぐ すっぽん 季節料理
京魚川
同窓生諸兄のご発展をお祈りいたします

〒135-0046 東京都江東区牡丹3-21-4
電話 03-3643-0802
片岡 尚友 (新13F)
(室川)

先人の歩み シリーズ③

世界の⑤、母船式マグロ漁業育ての父 『かっぺいさん』

第15回 漁撈科 長崎 勝平

プロローグ

能生水産高等学校から海洋高等学校へと校名変更し今年21年目を迎えている。創立から数えても115年目を迎えている。未来永劫輝き続けるであろう我が母校、そこから巣立った先輩諸氏の思い出は、若き日の青春時代を過ごした井陵台のことばかり。あれから40年、厳しい生存競争に打ち勝ち、今日を迎えたのも、何々先輩に近づきたい、超えたいという思いであったかも知れない。多くの先輩の功績を先生方は生徒に話し、我々を叱咤激励していた。

その中で世界の⑤、長崎勝平の話しをしていたのが、故長崎之夫先生（通称 テッカ）であった。大洋漁業株式会社、三浦三崎、遠洋漁業基地としての三崎の発展、能水寮、等あまたの功績は全て氏の人徳にこれなし、追慕の念にこれなし。我が国漁業の復興と発展は氏なくして語れない偉大な人物であった。

西浜第一の漁村、筒石で生まれる

明治38年11月7日、新潟県西頸城郡磯部村（現糸魚川市）の地魚仲買商長崎榮太郎の三男として生まれる。

父榮太郎は、日露戦争も我国の勝利で終わった年に生まれたので「勝平」と命名し、その出生を大いに祝った。

幼い勝平は、人に迷惑を掛けることは殆どしなかったが、きかん坊で、六歳上の兄と争っても負けないようなことも度々あり、村の腕白小僧相手に浜で砂まみれになって相撲を取っていたが強かった。母方の祖母は時には行司をかけて出

て、可愛い孫が勝つと、自分の家の屋号の「小石川」をそのままに「小石川の勝ち」と軍配を振り上げ、しわだらけの顔面に笑顔を作って、孫の強さを自慢していた。



故郷（筒石）

体育に、勉学に、そして家業にも励みながら、能生水産学校へ

大正9年4月、新潟県立能生水産学校漁撈科入学 勝



長崎勝平54歳頃

平が2年の時、父は病に倒れ、死んでしまった。学校から帰ると家の手伝いで兄を助け、その合間に勉強したが、学業成績は抜群で、常に90点は下らなかつた。陸上、水泳、相撲、弁論部選手としても活躍した。在学中農林省嘱託として漁業試験船鵬丸（帆船167トン）でカムチャッカ・千島の漁業調査に同船したが、広い海を知れば知るほど、未知の世界をもっと知りたい。学びたいという気持ちが心の底深くくすぶることになる。

台湾の教員生活から、志を立てて北海道大学へ入学する

大正12年3月、卒業した勝平は、台湾高雄州東港水産補習学校助教諭となって赴任した。頭も良く、勉強もするし真面目で同僚達にも信用があった。しかし台湾は学歴がすごく尊重され、大学・高専卒が巾をきかせ、教員仲間でも着る服やボタンまで違っていた。

負けず嫌いな勝平には、我慢の出来ないことであり「よし、おれも大学に行くぞ」と思うと、向学心が燃えさかり、僅か2年で学費をため、大正14年4月北海道帝国大学付属水産専門部漁撈科に入学した。学業成績は抜群で優秀特待生となり相撲、弁論、新聞部の闘将として学園内の信望を一身に集めた。昭和2年、おしよろ丸で遠洋航海に出た時、ひげを生やし、「ひげの長崎」の愛称はこの時に始まり生涯見事なひげをたくわえていた。昭和3年卒業と同時に、陸軍幹部候補生として1年間兵役に服した。

樺太における大きな足跡

昭和5年1月、樺太庁中央試験所技手として樺太に渡る。樺太西海岸のタラ新漁場の発見、同海域のタラバガニの季節的移動を追跡し水産界に大きな功績を残した。その後、日本食糧工業（株）（後の日本油脂（株））に入社し、樺太出張所長として持ち前の手腕を発揮し、長年赤字続きであった日本油脂の基盤を大きく築き上げた。昭和12年10月、陸軍少尉として日支事変に応召、後中尉に昇進。ノモンハン事件に参加、連隊副官「髭の長崎」として勇名をあぐ。



長崎陸軍少尉（昭和12年）

病妻や幼児を内地に残し中国の舟山列島で活躍

昭和16年2月内地帰還、7月林兼商店（大洋漁業株式会社の前身）に入社した。当時、中支那の海賊の島と呼ばれている舟山列島付近は、まれな好漁場といわれ、数百隻のジャンクの漁船が集り、北支や南支の舟もきて賑わっていた。そこに目を付けた数社が調査を行ったが採算の見込みたずということで見切りをつけていた。そのようなところに林兼商店は勝平を舟山列島営業所長と

して乗り込ませた。勝平は着任早々事務所を大改造し社旗掲揚塔を作り㊦の旗印を空高くなびかせた。日頃の勝平は、業務上のことでは社員にとっても厳しく、社員も仕事に真剣にならぬわけにはいかなかったが、仕事から解放された夜は、人間勝平の持ち味を十分に出し、社員を労り、皆んなの良い親父であった。皆から信頼され定海日本人会長にもなった。ただ、勝平の部屋の片隅には、先祖の位牌が安置され、毎朝必ずその前で朗々とお経を読むことを欠かさなかった。そこには、内地で闘病生活を送る妻の無事を祈り、亡くなったわが子のあの世での幸せや、両親と別れて暮らしている幼い子の今日の幸福を念ずる、心暖かな父親の姿であった。

セレベス島で食品製造に励む

昭和18年10月、本社総務部勤務の後、セレベス島マカッサル営業所長として赴任した。当時のマカッサル市は海軍軍政の首府で海軍関係だけで3千数百、商社120社、その従業員1,300人ほど原住民と生活していた。林兼マカッサル営業所は、軍の命令により、味噌、醤油、豆腐、油揚げ、漬け物、菓子を製造していたが、戦いも次第に激しくなり爆撃も受けることが多くなってきた。また、現地の原料にて合成酒醸造に成功し「林兼正宗」と呼ばれ軍民双方に好評で製造に追われる売れ行きであった。勝平は南方漁業に夢を抱いていたが、軍の統制でなんと、菓子屋と酒屋の仕事に打込むことになってしまった。しかし、商売違いの専門外であろうが、一端引受けたからにはあくまでも成し遂げるといふ、その気性から次々と成績を上げ、連合軍の反撃が強く原地産の代用品を使うようになって、改良に改良を加えて新分野を開いて行った。従業員は社員の他みんな原住民であったが、彼らは勝平を尊敬してとても良く働いた。

収容所生活でも食品製造

異国の戦場で敗戦を迎えた勝平は、マロマ、マリンプンと収容所を移された。そこでも食糧補給の役目を引受け林兼の人達と味噌、醤油、菓子を作り、皆んなを飢えから守ることに一生懸命であった。

21年5月、名古屋港へ引揚げ船で帰ってきた。この年の7月、林兼商店は大洋漁業株式会社と名を改めた。

我が国漁業の復興と発展に全力を尽くし後輩の世話をよくやる

21年7月、大洋漁業の三崎営業所長に登用された勝平は、田中潮子と再婚する。終戦で一変した世相は、当然水産関係にもあった。漁場の制限はマッカーサーラインで受け、



海を一望に収めて(長崎所長)

漁法、漁具、資本、食糧、何一つ満足な物はなかった。乗組員も腕に入れ墨、ねじり鉢巻き、喧嘩早く、粗野の者多く、何もかも荒れ果てていた。

このようなゼロからの出発に勝平は皆んなを引き連れ奮闘した。仕事の鬼となった勝平は、百三、四十トンの小型船でマグロ漁の操業を開始した。マッカーサーラインを撤廃させるために、日本政府関係者は勿論、連合軍関係への陳情や交渉に、我が国漁業界の死活問題として、常に漁業界代表団の先頭に立って働いた。漁場を南太平洋からインド洋へ、そして大西洋から地中海へと、日本漁船が活躍する場を広げた。船も大型化し装備も近代的な設備が必要になったが、乗組員の技量と資質が伴わない。新しい学問をした者が必要になり、北大、鹿大、能生水産高校の卒業生をどんどん起用して、7つの海へ日本男子を雄飛させた。また、世界をまたに活躍する漁師に国際的エチケットを心得させ、日本の信用を落とさせないようにする等、人間づくりにも心がけた。このように大小無数の問題を乗り越えて、近代マグロ漁業発祥の地の基盤を三崎に作った。小さな船から千トン級の母船式マグロ漁に至るまでの十有余年は異常なほどの熱心さで仕事に打込んだ。

「補足：大洋漁業の歴史」(旧33回漁卒 石坂栄治氏提供)

……マグロ漁業を事業的に大西洋へ進出させるべく立案したのは宮本信武であったが、これを決断し実行させたのが長崎勝平であった。他に一步先んじて成功の先鞭をつけた両者の功績は大である。……大西洋マグロの黄金時代は昭和35年～45年あたりであるが、母船式に替わり基地操業が主力となり、乗組員の交替も飛行機を使うようになった。ミラノ、ダーバン、アビジャン、ラスパルマスに駐在事務所が置かれた。……昭和20～30年代において、当社において「天皇」と言われた人が3人いたそう、その内の一人が長崎勝平であった。……

勝平は、三崎営業所長、神奈川県鯉鮪漁業者組合理事、三崎遠洋漁船製氷取締役、三崎漁業資材取締役、神奈川県無線協会会長、大洋漁業第



出船(大西洋漁場目指して)

二天洋丸船団に事業部長として陣頭指揮。大洋漁業を背景に「鮪の三崎」の地歩を固める一方、昭和26年から母校筒石小学校、磯部中学校へ教育費として各壱万円を送金し続けた。

また、27年には北水同窓会員・魚水会員憩いの寮(後、勝平記念寮となる)を建設する他、未来を築く子供達が健康で明るく育つために、スポーツを通じて明るい町づくりに乗りだし、請われて三崎体育協会副会長になった。

昭和28年には能生水独身者の憩いの宿「能水寮」30年には能生町出身青年寮「筒石荘」を建てる。さらに磯部中学校図書館には寄付金により長崎文庫もつくられた。

しかし、仕事上の役職、社会的役職と、一人何役かを見事に成し遂げている勝平の体にも、病魔が忍び込んでいたが、悪条件を押ししても、仕事仕事と精を出していた。

昭和35年3月、大洋漁業本社取締役重役となり、漁撈部長、三崎営業所長を兼ねたが、病院の床で指揮する姿も見られた。



大洋漁業本社重役として故郷に錦を飾る
(母校能生水産学校)野坂校長出迎える

昭和36年7月24日、肺ガンにより慶応病院にて永眠する。享年

55歳であった。勝平の死を知り、28日の浅草東願寺の社葬には、広い本堂をうずめつくすほどの人が会葬し、故人に別れを告げた。

昭和38年1月、北水・魚水両会連合総会で、その遺徳を後々まで伝えるため、北水寮・魚水寮を勝平記念寮と改めることを決議する。

「補足：大洋漁業の歴史」

長崎の功績は、三崎営業所の基礎を確立したこと、当社だけではなく、地域との協調と発展に心を砕いたこと、親分肌で多くの後進を育てたことなどであった。

「かっぺいさん」の愛称で長崎を慕う者多く、38年11月『長崎勝平』なる本が長崎勝平追悼録刊行会で編纂され、水産社から発刊された。同書は山本清内、内海延吉、発行人が田中礼次郎で、大洋漁業株式会社社長中部謙吉はじめ71名もの人が暖かい一文をよせている。余談だがかって作家の火野葦平が長崎のところに南の海の話しを取材に来たことがあり、これは彼の小説「赤道祭」(昭和26年)で存分に取り上げられた。

「長崎勝平」追悼録の一部より

吉川藤次郎 (新16製)

第15回生は文字通りの多士済々の組であるが、何といつて巨星長崎勝平さんこそ学生時代から断然光った存在であった。……長崎さんは弁論部の驍将で、卒業前の弁論大会の演題は「曲線を辿りて」と記憶しているが、当時の学生演説会はこの学校でもヤジで紛擾を極めたものだが、彼一たび口を開けば滔々虹の如き気焰を吐き沈着な態度と抑揚のある音声で、聴衆を呑んだサヨナラ雄弁の数々の名言が今でも想出せる名調子であった。……

戦友 相沢 小寿 (拓大講師)

「ヒゲの長崎」といえば有名なもので、部隊では一風格をなしていたものである。その「ヒゲ」が相撲大会となると「まわし」をつけて各隊選抜の兵隊さん達を手玉にとって、皆を喜ばせたり感心させたりもしたものだ。

長崎氏が大隊副官になった時は召集将校達をひどく羨ましがらせた。山や川や畑の中を軍刀を持って余し乍ら走り廻っている自分がまるで「この世の馬鹿野郎」としか感じられない召集連中だから、耳まで黒々としたヒゲをいつもピンとさせ、威厳そのものの容姿で馬にまたがっている長崎氏が、羨ましくてたまらないのも無理のない事であった。他部隊の佐官級などいつも遠くから「ヒゲに敬礼するなど愉快でたまらないこともあった。」

住吉漁業株式会社社長 四宮 秀雄

長崎さんほど漁業を愛し三崎の町を思い、そして自分の仕事に真実を捧げた人は少なからうと思う。漁業界、特に三崎在住の人には故人の遺された業績とその人間的な印象を思い浮かべない人はあるまい。長崎さんは今は語らないが然し故人の残した真実は永遠に私達の中に生きているからである。

参考文献

長崎勝平追悼録、新潟県人物百年史(頸城編)

大洋漁業の歴史

(文責 新18回漁 伊藤清正)

東京支部総会開催

東京支部広報部

去る2月17日、上野東天紅にて第29回一般社団法人東京支部総会並びに第25回OB親睦新年祝賀会を開催いたしました。

能水会の活性化を図るため、東京支部から広域連合活動を提案し本部総会に於て承認されてから4年目ですが、今回の総会には8支部(静岡、青海、能生、上越、新潟支会、群馬、栃木、神奈川)より支部長様を始め、会員の皆様、首都圏を含む東京支部会員の皆様から大台(100名)の御参会を賜り、真に広域連合活動と言っても過言ではない会とさせて頂きました。

総会は母校卒業生が時代、年齢に関係なく学んだ校訓



「質実剛健・進取力行・水産報告」を参会者全員で唱和し、鬼籍に入られた同窓の皆様にも黙祷を捧げスタートしました。後は式次第に従って進行です。

東京支部長挨拶、長年能水会はもとより東京支部運営に御尽力頂きました前支部長で現能水会会長の岩崎昇様に東京支部より感謝状の贈呈、東京支部の各業務担当者より平成24年度会計報告、同業務報告、会計監査報告、更に平成25年度収支予算案、同業務計画案報告と承認へと続き、御来賓頂きました能水会会長岩崎昇様、能水会顧問山崎光雄様に御祝辞を頂き、遠路駆けつけて頂きました母校学校長山岸克夫様よりご祝辞と共に母校の近況報告として、金沢大会における相撲部の団体優勝、世界ジュニア選手権大会（香港）に於いても優勝、オーシャンプロジェクトでは県より高い評価を得ている厳格な食品の管理手法のHACCPの取得等在校生の活躍のご披露に続き、本部事務局長の渡辺先生より既に養殖に成功している真昆布を使った新製品の「うどん」の商品紹介を頂き、総会議事は終了しました。

回を重ねて16回になります東京支部恒例の新春セミナーに移り、今回は旧制36回養殖科卒業の大先輩岡野工治様に講師をお願い致しました。

演題は「萬死に一生を得て」です。昭和19年兵役のため繰上げ卒業され、陸軍隼戦闘機隊に編入、敗戦色濃くなって来た中、中国大連に異動、そこで戦闘機操縦の訓練を受けて特攻隊員となったが、100名以上いた戦友が100%帰還出来ない戦場に向って飛立ち敵艦に体当たり、戦場の(海)の藻屑と消えた数が半分以上、その当時の日本には武器補充の能力はなく、後続の戦闘機が届かず出陣の無いまま、ソ連軍の侵攻と敗戦でソ連軍の捕虜となりハバロフスクに連行、極寒のシベリアで森林伐採、鉄道敷設等重労働に従事ここでも多くの戦友が亡くなったが、4年間の抑留生活も落命する事なく日本に帰国出来た。帰国後は、新潟県の教職員から新聞社勤務を経て、現在は先の大戦の語り部として、シベリア抑留者協議会世話人を務められて居られますが、幾多の死線を潜り抜かれた体験談でした。

OB親睦会は司会者も交替し、久しぶりに顔会わせた同期の仲間と再会されたところで、大変ご多忙の中、数年振りに御出席を賜りました衆議院議員の高鳥修様に御祝辞を頂き、能生より御参会頂きました本会顧問田中勉様、昨年より友好団体として交流を行っております東京糸魚川会会長望月謙治様に御祝辞を頂いた後、遠路駆け付けて頂きました本会副会長伊藤清正様、8支部の支部長・副支部長・支部代表の皆様、東京支部から伊藤信雄氏に登壇をお願いし、猪又能生支部長に乾杯の音頭を執って頂き、宴会がスタートです。

暫くご歓談の後、新制17・18回卒生に登壇とリードをお願いし、遙か昔の歌「青い山脈」を会場の皆さんと熱唱で大変な盛り上がりでした。多くの大会で活躍された母校相撲部の試合のビデオ放映の中、OBの日体大現役相

撲部の橋本君と母校相撲部の現役コーチの阿部先生に登壇を願い、母校相撲部部員の活躍の状況報告を頂きました。日頃から練習をされて居られると言う新制12回卒の鈴木邦男様、新制21回卒の山田正様の張りの有る声での相撲甚句は見事なものでした。

会の盛上る中、有志に登壇をお願いし最初は第一校歌、今回より正調伴奏をバックに第二校歌、渡辺事務局長のリードで応援歌と続き、会は大変な盛り上がりでしたが、制限有る時間は止まってはくれません余韻を残しながら遠く郷里を思い子供の頃唄った「故郷」をご参会の皆さん全員で合唱、東京支部長よりの謝辞、伊藤副会長より大メの音頭を執って頂きまして滞りなく親睦会は終宴となりました。

今年も好評な在校生の実習製品の鯖缶を手土産に会場を後にして頂きました。次回は平成26年2月16日(日)上野東天紅にて開催の予定です。

近隣支部交流会

能生支部長 猪又 芳夫

平成24年11月28日、能生駅前「汐路」にて青海・糸魚川・能生・名立の4支部から50名の皆さんの出席をいただき、初の試みであった近隣支部交流会が盛大に開催され、成功裡に終了出来ましたことを心より御礼申し上げます。また、上越支部からも支部再結成に向けてのメンバー2名が参加されましたことにも感謝申し上げます。

さて、歴史と伝統のある我が母校も教育改革の変遷の中、能生水産高校から海洋高校へと校名も変わり、充実した教育環境の基、多くの人材が社会へと飛び出しています。

我々同窓会の目的は、会員相互の親睦融和も大きな目的ですが、一番は母校の発展に向け何が出来るか、どんな貢献が出来るかであります。しかし、その貢献も各支部の活発な活動あってのもので、特に地元である能生支部の活動が停滞してはならないと考えていました。能生支部では以前から他支部との交流訪問等を行って来ましたが、近年は相撲部の活躍に合わせ、応援隊の結成と支援が中心になっています。

昨年の本部総会においても、多くの支部で欠席、又は支部の存続そのものが危ういという支部もありました。さらに出席者も高齢者ばかりという話しを聞きます。海洋高校になって既に20年、新しい会員の参加がなぜ無いのか、女性会員の参加がなぜ無いのか、参加しない会員になぜ参加しないのかと問う前に、支部長としてやることは何か、幾つかの方策を支部役員と検討しています。課題は、描いた具体策をどのように実行出来るかあります。

今回行った近隣支部との交流会はまさにその取組の第

一歩であったと思いますが、まだまだ工夫が必要で、これをもっと盛大にする方策も考えています。今母校では海洋丸の老朽化に伴い代船建造の話が持ち上がっていますが、海洋丸こそ我が母校のシンボルであります。同窓会組織を上げて建造への後押しをしたいと思います。



「らっきょ先生の思い出」

山岸 義明 (新17製)

権現岳の奥に残雪が見える6月半ば、能生谷「対岳荘」で、恩師田村先生を囲んで旧友と48年前に戻って楽しい時間を過ごしました。

面々のとても前期高齢者入り、生産労働年齢を外れたと思えない元気さに「さすが、田村先生の教え子」と感心いたしました。田村先生の年齢を全く感じさせない、心身共に驚異的なお元気さには今回も脱帽でした。この様子の詳細等については、他の方からご紹介があるのでお譲りいたします。

さて、その際記憶に残る話で「らっきょ先生」の思い出を懐かしむ声が出てまいりました。強烈な印象を残された先生のお一人で、覚えている事があったら一筆書けとの要望がございました。10年ほど前に鬼籍に入られた先生の思い出について記憶を手繰って見ます。

ニックネームは「らっきょ先生」、本名「細田毅先生」です。いつもスタイルに気を配られ、当時珍しいハンチング帽、きれいに撫でつけられた7・3の髪の毛、隙のない背広ネクタイ、トレンチコートで身を固め颯爽としたお姿は今でも強く記憶にあります。多少近づきがたい雰囲気をお持ちでした。

どうして「らっきょ先生」のニックネームなのかは知りません。

私が昭和37年、入学1年生の記憶に、細田先生が教科の事でなく人生の教訓を話された事があります。内容は今でも鮮明に覚えています。それはプロ野球、巨人軍に長嶋選手が入団し、開幕戦で当時の国鉄スワローズとの対戦、相手のエース金田投手との戦いの話です。その時金田投手は長嶋選手を4回連続の三振に切って取りました。後世に残る物語として広く知られた話です。後に金田投手は、長嶋選手の持つ高い技能資質はプロ野球界を大きく動かすのは間違いない、恐怖心を持つ位の印象を

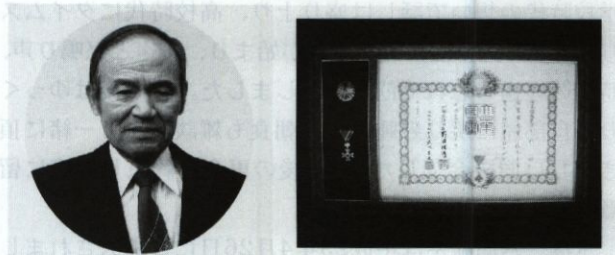
与えるため全てを出し切って対峙したと言われていました。

先生が言われたのは、あらゆる戦いは「始め」が後々まで大きく影響するので「まず、始め」を大切にすることが肝要であるとお話です。人生に様々な始めがあります。何事のスタートにも「始めが肝心」との事です。始めを迎える心構え、準備、研究、段取りなどが結果を大きく左右します。

この事は人生教訓として私の中で長く生き、今日まで助けていただきました。大切な教をいただいた50年前の出来事でした。

一方、近寄りたがたい雰囲気の中、非常に近しみを感じる一面がありました。当時、軟式テニスの部長をやらせていて偶然私も部員として教を乞いました。テニスの腕前は全く上達しませんでした。先生の教え方は優しいものでした。練習の合間に、ユーモアたっぷりおちゃめに、ドキッと世の中裏の話をされます。やはりその時も、人生教訓的なアドバイスでした。ダブルスではチームメイトとのコミュニケーションが勝負を決するとも。周囲に迎合しないタイプであったように感じていましたが、人との関係の大切さを教えていただきました。沢山の事を教えていただいた恩師「らっきょ先生」でした。深く感謝申し上げます。 合掌

小杉 功氏(S15 i)瑞宝単光賞の栄に浴される



平成24年秋の叙勲において、元糸魚川市能生消防団副団長の小杉 功氏 (S 15 i) が永年にわたり消防防災活動に貢献された功績が認められ、瑞宝単光賞の栄に浴されました。小杉さんは能生支部の発展にも多に貢献し、本部代議員としても長らく勤められました。常に謙虚な態度で仕事もされ、本部総会にも必ず出席されています。氏の直向きさこそ糸魚川市民の安心安全の確保、さらに災害に強い地域社会を作るためには欠くことのできない人であると強く感じました。

小杉さんおめでとうございます。

懐かしい同級会に招待されて

水澤 六郎

秋も深まり山里の紅葉が一段と彩り、見頃を迎えた10月4日、能生谷の奥座敷柵口温泉権現荘で、能生水産高校第14回水産増殖科卒の同級会が開催されました。遠くは東海、関東方面から駆けつけ、精鋭8名が集まりました。職員では私と佐藤 優先生が招待され、何年振りの再会

が出来嬉しく近況報告に花が咲きました。

私は、能生水産高校一筋勤務在職40年、定年後引続いて2～3年時間講師を勤め、私にとって忘れられない想いでこの学校です。お陰様で毎年2～3回同級会に招待され、昔に返って楽しみみんなの成長振りを拝見するのが唯一の楽しみです。



当日は快晴の秋晴れで、近隣の佐藤 優先生と同伴、山間の鮮やかな紅葉を鑑賞しようと、開催時間の2時間前に自家用車で自宅出発、所々で見事な紅葉を心行くまで眺め会場入りしました。会場ロビーには既に何人かの諸君が談笑、私共の顔を見るやら笑顔で迎えて頂き、再会に堅い握手攻め、懐かしい面々と語り合いました。宴会の開催に先立ち、温泉で一風呂浴びリラックスしました。

定刻、巻淵卓也さんの司会で進行、欠席者の近況報告、学校時代の想いで話しは盛り上り、高校時代にタイムスリップし、酔う程にカラオケが始まり、美声と怒鳴り声、時間の経過も忘れて飲み飽かしました。その後はゆっくり各自部屋に戻り熟睡です。朝食も雑談混えて一緒に頂き楽しい同級会でした。2年後の再会を約束し健康に留意するを誓って散会しました。

水澤 六郎先生は平成25年4月26日にご逝去されました。 合掌

越山丸鮭鱒実習 北洋日記

小澤 (本間) 三雄 (新9漁)



はじめに

過日、荷物を整理していると偶然にも能生水時代の実習記「北洋鮭鱒実習日記」が出てきた。50余年前の高校

生当時の日記で稚拙な文、誤字、当て字も多い中当時を回想、追憶にしたっている。

昭和31年4月、みんなが切望していた鉄鋼実習船、初代「越山丸」152, 5トンが誕生した。そして、同期7名が級友羨望の眼を背に受けながら意気高く、第1期の実習生として乗船、遠洋処女航海に北洋へ鮭鱒資源の調査出航することとなる。4月15日から8月26日までの長期間狭い船内、曇天で太陽の見えない毎日、大時化、小時化の日々、寒く冷たく、北洋は海の墓場といわれる所以だ。長く苦しく、そして、少しだけ楽しく面白かった4ヶ月の実習日記ですがご一読下さい。船長、航海士はじめ甲板長や他の船員からよく怒鳴られていたこと、連日の時化続きで食事もままならなかったこと、特に荒天が大きい時など船が沈没することばかりを心配していたこと、夜中スタンバイの揚網作業は眠く、寒く、冷たく、手が悴んで思うように網を揚げられなかったこと、また、投網後の漂泊時など揚網スタンバイまでの時間はレコードのボリュームを最大にして北洋上で演歌を聞いていたこと・・・等々、みんな懐かしく遠い、遠い過去の想い出となっている。

5月16日、日付変更線通過 晴後曇

朝から海は相当荒れていて船はすごく揺れる。11時頃第1回観測点に達し観測を始めた。海が荒れているため投網出来ず皆鮭が直ぐに食えると思って楽しみだったのががっかりだ。11時東経180度突破、日付変更線通過また12時より5月15日としてやり出した。日記がまたやり直しでは何だか変だ、また今日も航海士に叱られた。何故か知らないが責任は何時も俺の所にきてそして怒られる。一体俺の何処が気に入らないのか、まあ俺も少し馬鹿かも知れないが、俺だって知っていることは沢山あるのに、学校で皆と一緒に習っているんだから、学校の成績だって悪くないと思っている。悔しいやら、情けないやら、泣けて仕方ない。



6月18日、母船「照玉丸」

180反で200匹の漁獲量、その後米国旗を依頼した母船「照玉丸」へ、母船に上がって菓子などをもらった。船団長は先輩で船内を見せてもらったが、まるで大工場そのもの、沢山の人が働いている。流れ作業で全てうまくいっているように思った。俺もこのまま母船に乗って

いたい。出のて金の八巻、式まの合り船がゆひん心船

6月23日、晴、「アダック島」53° N 176° W

朝6時半「栄光丸」と一緒になり9時頃入港、海は静か、久しぶりに周りの緑が目に入る。さみしい所思ったが案外賑やかそうに見えた。さすが、米国の軍港だ、自動車ばかりが動いていて人間の姿はさっぱり見えない。検疫を済ませて棧橋より上陸しても柵より中へは入れないのは残念だ、外国の様子は何もわからないけれどもとにかく珍しい、たまに人が近づいて来ると言葉がわからないので手真似足真似で何とか片言位は通じてるみたいだ。チョコレート、リング等をもらった、昼食は鮭の刺身、夜は菓子も出た。

6月30日、「アダック島」 米国漁船乗船記

米国の鮭鱒船といっても漁獲作業そのものは日本と同じようなやり方であるが、その省力化はすごいと思った。全てが日本より充実している。従って大勢で作業をする日本船より動力が主体であるから少人数で済むわけである。例えば投網時、日本は全員作業であるが米国は2, 3人で作業をする。他の者はただそれを見ているだけ、それ位に全てが便利に出来ていると言うことだ。それでいて結構上手くいっている。揚網時にも同じ事が言える。しかし、漁獲量大の時など鮭が傷む場合が多いのではと心配もした。網地を見ても浮子はコルクであるから小型でも浮力は大きいし形が円形、丸くなっているのが絡むこともない。沈子は大体似ている。今普及しつつあるのは沈子網の中に鉛が入っている物が出来ていると言う話である。船体そのものでは船員室はゆったりして日本船のように狭苦しさはなく健康面には十二分配慮されているようだ。船内は広く明るい、機関室には人が居なくてもいいように全部船橋から鎖等で連絡出来るから船橋に居るだけで自由に操船可能となっている。とにかく日本の漁船に比して部分的な所までは似ていないが、それにしても同じ鮭鱒船ならばせめてあれくらいの方法は必要かと思った。

7月25日、曇



夜中スタンバイ、時計は午前2時、揚網に6時間余り、200反の揚網終わり、漁獲量1,500尾、今までで一番の豊

漁だ。波はない、風はない、風の言葉がピッタリ、ようやく北洋も夏なのか、採割に時間がかかった、しかし皆嬉しそうだ。午後3時頃母船「崑山丸」に寄る。直ぐに給油し離船して航走すること2時間余、うす曇とうす暗い中、投網する、寒い、冷たい。

8月13日、

時々ガスの濃い海域を通過する。その度に船は減速と霧中信号の繰返し、ガスが濃く時は船首で60分ずつ交代でワッチ、ガス湿気で顔から服からビショビショだ、相手船の霧中信号を聞いてしばらくして近くにボンヤリ船影が見えたと思ったら直ぐ相手の船は目前だ、危ない危ない冷や汗もの、もし、これがお互い全速だったらと思うと……

「興南丸」には塩蔵物と冷凍物を渡し、一路函館に向け全速。

8月18日、函館入港

8月25日、新潟入港

8月26日、下船

初代越山丸は昭和31年から42年までの11年間、北洋への鮭鱒の調査実習、そして南洋方面の鮭実習へと多くの漁業科生、専攻科生の夢を乗せての航海に旅立った。当時は北洋全盛時代、多くの先輩方が船団長として、船長として活躍もしていた。能生水産にとっては海の黄金時代だったかも知れない。しかし、けして平穏な海ではなく時には牙を剥く海であった。命を落とした先輩もいた。この北洋日記は小澤（本間）三雄さんの日記を部分的に抜粋し掲載したが、当時を追憶していただければありがたい。



天然温泉

雨飾温泉

日本秘湯を守る会の宿



日本百名山

雨飾山

〒949-0544

新潟県糸魚川市大字梶山1870

山荘 TEL 090-9016-3212

連絡所 TEL 025-558-2211

代表 中村 勉 (新19A)

自然の葉っぱでアート

熊谷市 宮川 正夫 (新9製)



現役を退いてから一日の時間をどのように過ごそうかという思いはありました。でも以前から趣味を浅く広くをモットーに色々やっていたので、これからはゆっくりとマイペースで所謂「スローライフ」で楽しく自分の好きなものに没頭すればと思っておりました。その一つが三年程前から「葉っぱ絵」に興味をもち、のめりこんでいます。準備段階として葉っぱを押し花にしておかなければなりません。散歩をしながら「これは何かになるかな」と思うものを採取して、家に持ち帰り電話帳などにはさんで重しをして押し花にしておきます。形や色には自然のものでありますから制約があります。頃合いを見てイメージを膨らませながら紙に貼り付けていくのですが、思い通りの作品に仕上がった時には「自画自賛」をしながら喜びつ楽しく過ごしております。

そんな駄作ですが多く溜まってきましたので、自作の「作品集」を作ってみましたので、その一部を送ってみます。

恩師 三上先生を偲んで

山本 英紀 (新11漁)



昨年11月23日に我々新制11回生の同級会を弥彦温泉(みのや)にて開催しました。当日も三上先生を初め20人程で参集し在学中の青春時代に還り夜を徹して時の過ぎるのも忘れて飲み語り合ったのです。三上先生も毎日の様に御参加頂き、その当時のまだ若々しい容姿を思い

浮かべながら語り合いました。過去の会での出来事として熱海でのことです。新幹線(のぞみ)でお出でになった時、車中に肩掛けカバンごと忘れられた時……直ぐさま車掌に連絡をとり、おーいあったぞ、あったぞ、(財布ごと)去日名古屋まで受け取りに行かれたハブニング等々……同級会も早20年以上も続いています。漁業科の担任として我々に温かくご指導して下さいました。公私ともに大変ご迷惑をお掛けしたと反省しています。

授業はもとより海洋実習で頸城丸にて能登風無鯛流し網漁、また佐渡へのカッター訓練、越山丸での赤道直下鮪延縄漁(三崎まで引率までして頂きました)その時に見た南方の景色、今でも脳裡に残ります。ブリッチより南東の方向に浮かぶ南十字星は素晴らしかった事……函館港より釧路港鮭鱒の流網漁、その時見たオットセイ、空砲による威嚇射撃等思いは尽きません。今でも懐かし脳裡に蘇ってきます。我々を遅く育て下さった事、社会に出ても心は揺れ動き、校訓の質実剛健を胸に憧れの大海原へ大先輩の方々の姿を見習え、と言われたような思いを実感しています。

翌日朝食から乾杯し弥彦神社参拝、先生はお元気でまた来年宜しくと24日にお別れしましたのに、何とその6日後に級友からの電話あり、急に逝去されたとの報に驚き、皆との連絡に慌ただしい日々が続きました。葬儀(お疲れの会)は11月に行われましたが、我々同輩としては諦めきれません。昨日まで先生と話し合い慰めあっていたのに、と残念でなりません。我が子のように沢山の励ましと思いでを残して頂き有難うございました。御家族の皆様もさぞお力落しの事とは思いますが、ご冥福をお祈り申し上げます。

先生は、我々に人生の最後の姿を示して下さいたのかと思います。日頃元気で最期は安らかに逝きたいと皆なで話して居るところです。在学中は他の科の先生方にも大変お世話になり有難うございました。

新制17回製造A組同級会報告

伊藤 信雄 (新17製)

新制17回製造A組(昭和40年卒業)は恩師で担任の田村先生を囲んでの同級会を平成25年6月14日、残雪が残る権現岳、能生谷「対岳荘」にて開催いたしました。

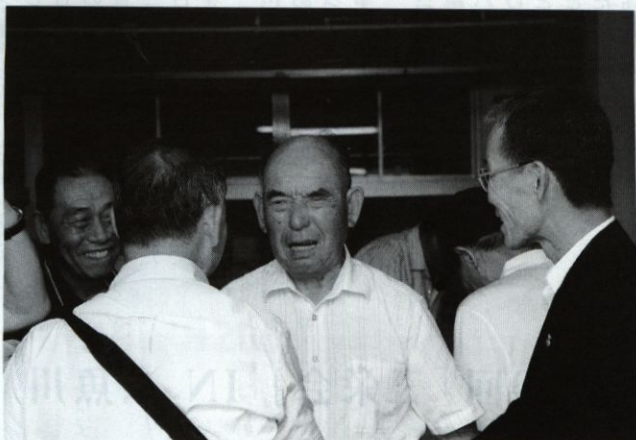
卒業してからの同級会やミニ同級会、同期会を含めずと今回で5回目となりますが、初めての参加者は3名のうち大阪より2名の参加です。

能生駅での待ち合わせですが、何せ48年ぶりの再会の者もいるので、大阪方面からくる電車を待ちわびながら、改札口ではバスタオルを振りながらの盛大な出迎えます。そして互いに抱き合いや、握手での再会でした。能生駅よりマイクロバスで海洋高校に向かい、田村先生、貝沼君と合流。

先生の姿を見るや否や駆けつけて48年振り握手を交わす丸山君に『元気してたかね～よく来てくれて良かった、良かった』と顔をクシャクシャして喜んでおられました。



其のあと、相撲道場、ダイビングプールを見学し鯨砲での記念撮影。



バスに乗り対岳荘に向かう途中、能生谷の横、川詰の地域に近づくと、『あそこが俺の生まれたところや』とか、『あそこの青い屋根が俺の家や』と声高らかな案内に、よくここから通ったもんだね～の質問に『それは勉強したい一心だよ～』との返答には割れんばかりの拍手喝采でした。

柵口に入り300年以上経つ浄土真宗、西運寺、寺院を見学、天井にポタン、ユリ等96種の華絵が鮮やかな色調で描かれており、時代を感じさせない様相でした。全員合掌！。対岳荘に着き湯船につかる者、ロビーで権現岳を眺めながら旅館主人の説明を聞くもの、髪の毛や容姿は変わっているもの元気さは高校時代を彷彿させるほどです。

宴会は、卒業生40名中11名が鬼籍に入られているのと報告で、少し多いのではと思いながら黙祷に入り、続いて『先生・皆さんのご健勝を祈念して』の乾杯音頭から始まりました。

宴に入り各人の近況報告です、現役で仕事の続けている者の仕事に対するロマンや、大きな病気を患い、一生懸命リハビリ励んでいる者の話や、お孫さんの話し等、参考までにお孫さんの最も多い方は和泉君の8名でした。

一年生の時の実習や3年生の時の運動会の復活、修学旅行で伊勢の旅館で枕のぶつけ合いの等の話に大いに盛り上がり、一緒に勉学はわずか3年間で、どうして、こんなにも楽しいものなのか不思議でたまりません。

宴会も盛況に進んでいきますと、田村先生がコピーをされてこられた用紙を皆に配りながら『皆に読み上げるので聞いてくれや～』と朗読を始めたのです。

題名「なくてはならぬもの」高校の時、英語の授業での二人の若者の物語は48年経った今でも鮮やかに心に残り友人の有難さをしみじみ感じさせてくれる、物語で、最後に心身共に純粋で、各自の夢や理想に向かって一途に打ちこむ高校時代、いや高校時代のみならず、この人生は親友を得ることで決まると思う。せっかく縁があって同級生になり48年経った今、亡くなった方もおられるけれど、その彼らの分までも皆で、今まで以上の強い友情の絆を築いて行って欲しいと、しめくくりになりました。

最後は校歌と応援歌で一次会終了、勇士は幹事部屋で永遠朝方の3時まで吞んでいつまでも、思い出話はつきなかつたようです。

翌日は朝食後自由解散で次回全員が健康で会えることを祈願して別れを惜しみながら無事同級会は終了いたしました。

俳句

佐藤 由蔵 (新5増)

自身の俳句集「駒隙」から一句。「駒隙」(くげき)は、月日の過ぎやすく人生の短いことをいった言葉。

翁忌や郷にえにしの「霧と鐘」



白山神社平成11年12月10日、朝日新聞 (評)

能生の白山神社は国の重要文化財。境内の右手奥に「越後能生汐路の名鐘」の碑がある。「常陸坊海尊」の銘をもつこの名鐘は、「汐が満ちてくるとおのずから一里四方に鳴りひびく」などと記した終わりに「曙(あけぼの)や霧のうづまく鐘の声 芭蕉」と刻してある。

「おくのほそ道」で芭蕉が白山神社に参り、この句を詠んだと地元で信じている。

「翁忌」(芭蕉忌)は陰暦10月12日。作者はこの日、「名鐘碑」を見て「郷にえにし」の深いことを認識した。芭蕉ファンの熱い一句。

新潟日報「窓」

糸魚川市 相馬 勇乃佳(17) 高校生

私は高校で海や水産業について学んでいます。この5月、1週間かけたロシアへの航海実習があり、私も参加してロシアの学生と交流してきました。

出発前は、ロシアという文化や言葉の違う国に行くことに不安で胸がいっぱいでした。ロシアに到着した時、現地の子が迎えてくれました。だが、「言葉」という名の壁が立ち、大きく戸惑っている自分がいました。そして、このまま大丈夫なのかと、このことが心配していました。しかし、そんな私は、ロシアの学生さんたちが、ロシアの学生さんたちが、明らかなフレンドリーに接して

ロシア学生と交流し成長

くれたおかげで、少しずつ仲良くなり、交流が楽しくなってきました。そして、日本語を話せる学生さんに出会い、ロシアのことを色々教えてもらいました。おかげで、少したけロシアという国のことを知ることができたと思います。

この体験で、生活している国が違っていたとしても、人と人は融れ合っていくと分かります。このことを、身をもって感じることをできました。

この航海実習と交流は、参加した私たちのクラスを一つにまとめ、また、一人一人を大だしたててくれたと思っています。この体験で、自分たち自身を誇りに、ロシアの学生さんたちと卒業に向けて努力していきたいと思っています。



ハサップ認定を報告する海洋高校の生徒ら
13日、県庁

海洋高校HACCP取得

非加熱食品で初 生徒、知事に報告

海洋高校(糸魚川市)は、授業の一環として、科学科3年の高野将伍(さ)は、授業の一環として、

ニザケとヒラメの薫製の商品化を目指し、食品衛生管理の手法HACCP(ハサップ)の認定を受けた。非加熱食品での認定は全国の高校で初めて。生徒が13日、県庁に泉田裕彦知事を訪ね、報告した。

同校は、特色のある学校づくりを進める県のオーナー・ワン・スクール・ステップアップ事業の指定を受けており、模範会社をつくらせて材料から調理、出荷まで総合的に衛生管理を行うハサップ認定を3月に受けた。安心・安全な商品としての付加価値になるという。

県庁を訪れたのは食品

「商品」の完成度が高い。(模範会社ではなく、会社にした方がいいのではないかと活動を評価した。

泉田知事は「商品の完成度が高い。(模範会社ではなく、会社にした方がいいのではないかと活動を評価した。

「認定を得たことで、多くの人が安心して食べたい」と語った。

販売場所や時期は未定だが、「認定を得たことで、多くの人が安心して食べたい」と語った。

話かご



川市の海洋 述べた。

高校から大 相撲の鑑 山部屋に入 門した小池 高に進学した。魚界入り

一毅さん(17)は、6月に2年での身長の激増が23日、同 中退、今月の名古屋場所市能生の旅順で開かれた。初土俵を踏んだ。

II写真II 師匠の鑑山親 〇：海洋高からは1方(元関脇寺尾)や西親 月、元同級生の梅津 序らに前に、関取になって(二段)が同じ鑑山部屋に入門した。

「梅津には負けたくない」と身長1.82m、体重153kgのホープは気合十分、鑑山親方は二階入郷士に師を拜せたいと期待した。

新19回「三栄会」IN 糸魚川

西内 俊夫(新19製)



海洋高校(旧能生水産高校)の先輩、後輩の皆様お疲れ様です。私達も60歳半ばを迎えます。お陰様で「三栄会」も第5回(去る6/8~9)開催終了いたしました。今回は、再び(旧能生町)に帰り、柵口温泉にての旅行企画でした。出席者は14名でした。年々一人欠け、二人欠けして参りましたね。残念で堪りませんが、でも、毎年開催していますが、出席率は向上しています。庶務担当としてありがたいなあと思ひ感謝しております。今後とも宜しくお願いいたします。

1日目は母校見学と糸魚川ジオパーク、フオッサマグ

さけ魚醤「最後の一滴」商品化!



生物資源研究部の生徒が、能生川に遡上した商品価値に低いサケを有効利用するために開発・製造した魚醤です。さけの香りと濃厚な味が、炒め物や焼き物のおいしさを飛躍的に高めてくれます。高速液体クロマトグラフィーによる分析では、アンセリンという疲労回復に関わる成分も高濃度で含有されていることが明らかになりました。

この魚醤だけで味付けした「さけ醤油ペロンチーノ」は、「ご当地! 絶品うまいもん甲子園(農林水産省/一般社団法人全国食の甲子園協会主催)の関東甲信越エリア大会の5品目」に選ばれ、8月2日に埼玉県越谷市で行われた料理コンテストに部員3人が参加してきました。審査結果は9月中旬に発表される予定で、エリア大会の上位チームが全校大会に出場できるようになっています。

生物資源研究部は、持続可能な食料生産に寄与することを目的に、基礎研究から商品開発まで幅広く活動しています。まずは、全国大会に出場し、「最後の一滴」が広く利用されるようになることを願っています。

道の駅「マリンドリーム能生」にて、1本(120mL)500円で販売しています。

ナミュージアムの見学でした。母校見学は、能水会事務局長渡辺様に案内して頂きました。その節は有難う御座いました。実習室を見せて頂き、私達が使用した実習機械がまだ残っていたのにはびっくり、感激しましたね。

2日目は能生中・海洋高一貫の相撲部朝稽古を見学致しました。顧問の村山様より詳細に説明して頂き、感謝で一杯な気持ちでした。海洋高相撲部を激励する為、お米90kgを差入れてきました。後程、主将の松永君よりお礼状が各自に届きました。

私達、「三栄会」各自は角界に一人でも多く進んでくれますよう祈っております。平成26年は日本の首都、東京で開催します。一人でも多く出席することを期待しています。先輩、後輩の皆様も

“お身体を大切にご自愛下さい”

平成25年度カッター一部大会報告

カッター一部顧問

山口 活水

6月21日に、「第15回全国水産・海洋高等学校カッターレース大会」の日本海北部地区代表を決定する、「第41回北陸漕艇大会」が福井県立小浜水産高等学校で開催されました。予選平均タイムは2位で、1位と僅か1秒差でありましたが、決勝では今までのレースのミスを全てクリアして2位に約10秒離し、5年ぶりに優勝旗を手にし、全国大会に出場することとなりました。

7月27日～28日に、青森県八戸水産高等学校で開催された全国大会では、予選Bブロック4位となり、敗者復活戦にまわりEブロックを1位で通過しました。準々決勝に進みHブロックで2位通過し、準決勝に進みましたが、自己ベストタイムを出してレースを終えることができました。この経験を来年度につなげていきたいと思えます。

最後になりましたが、同窓会より激励金をいただき、誠にありがとうございました。



第16回全国水産・海洋高等学校 ダイビング技能コンテスト全国大会報告

ダイビング同好会顧問

渡辺 宏幸

平成25年8月19日・20日と茨城県立海洋高等学校において開催され、本校ダイビング同好会より女子1チーム(3TM笹川佳乃子・1M田中真琴)男子2チーム(Aチーム2TM石原樹・1M筒井辰弥、Bチーム3TM村越草馬・1M坂野農)が参加しました。

昨年度本校開催において久しぶりの総合優勝を果たし、今年は連勝のかかる大切な大会でした。

女子は3年連続出場の笹川を中心に順調に勝ち進みましたが、男子は主力の3年生を進学のため出場できない状況もあり、なかなか勝つことが出来ず1日目を終わり総合優勝の圏外に落ちてしまいました。

しかし、勝負事は何が起るかわからないので、2日目の最終種目は背水の陣の構えで戦う形で挑みました。奇跡は起こり男子Bチームが好成績を上げ順位を上げ、上位チームが順位を下げたおかげで男子Bチームが男子の部で3位になり女子が1位で勝ち点4点となり、トップの東京都立大島海洋国際高校と同点で並び、種目1位の数で本校に軍配が上がりました。

奇跡の勝利と生徒の最後まであきらめない姿勢に感動し、抱き合い喜びました。

昨年の本校開催の時は同窓会よりご支援を頂き大変有り難うございました。本校における特色ある教育を地元を始め県下に広く伝えることが出来た大会であったと思います。また、今回の全国大会出場についても激励金を頂き、この場をお借り致しまして御礼申し上げます。今後とも「潜水の新潟」と言われるように指導していきたいと思えます。



郷土からの発信 (変わりつつある糸魚川と母校)

石井 順二 (新24製)

現在私達が住んでいる糸魚川市は、平成17年に合併して能生町から糸魚川市となりました。新潟県で日本海に面している市も村上、新発田、新潟、長岡、柏崎、上越そして糸魚川市と合併が進み、更に新潟市が提唱している(州)単位での町づくりが進む現状、糸魚川市の将来はどのように変化していくのか、水面下で進んでいる上越市との合併もやむを得ないのかも知れませんが、15年程前に糸魚川市が取ったアンケートには隣の県との合併を考えたこともありましたが、自分自身は長野県と一緒になりたいと回答しました。多くの方も同意見で郷土の未来の為に新潟県か長野県か果たしてどちらが良いのかと今でも関心があり、時々自分自身から話題に出して他の方々の意見を聞くことも多くあり、大半の方は長野県を希望する意思が強いと感じます。特別大きな基幹産業も無い糸魚川としては観光は最大の戦略、新潟県全体を考えても200キロの海岸で同じ環境で同じ産物を作り販売しても、特化した物もなくインパクトも無いのでは、海の無い長野県との合併は先に明るい光があるのではないのでしょうか。

私は、現在商工会の「うまいものプロジェクト委員会」に所属して他人より意見を聞くことも多くあり、日々自分なりに新しい考え方に変化しています。同時に糸魚川市の観光を考える又は市の将来像を考える会議にも参画していますが、能生の方と大きく違い発展性のない意見が多いが目立つように感じます。考え方の違いは周りの環境も違うせいかなーと。……

糸魚川市も将来明るく豊で幸せな暮らしを望んでいます。個人的な豊かさも必要ですが、市民全体が豊かでないと自分自身の将来もないと感じます。長野の山の観光と糸魚川が持つ海を組み合わせた観光へ夢を託しては如何でしょうか。ジオパークを全面に出して観光を推し進める糸魚川、今一步絞れず集客増になってない。20数個ものサイトがありますが一般向けには少し多いのではと感じます。観光ガイド、市民も3から5カ所に絞って案内出来ればジオパークも市民の理解が得られ観光客にも紹介出来るのでは、例えば、黒部ダム、フォッサマグナ、ヒスイ峡、親不知、弁天岩、相馬御風などを織り込んだ観光であればと感じます。新幹線開業も近いこともあり早急に実行に移すことが望まれている現状です。

海洋高校も時代と共に変化して製造加工分野でも目覚ましい成果を上げています。8月には(絶品うまいもの甲子園)に出場したりして魚醤油、燻製品、うどん、パスタ等々の商品を生み出しています。生徒が生み出した商品を販売へ少しでも採算が取れば受け継いでくれる企業も探し易く、郷土のため、しいては生徒の為になると考え協力しています。生徒が生み出した製品が好評だったり、卒業後も売り場に並んでいたら、将来の励みになり、会社の同僚や上司に誇らしげに話すことが出来ると思います。生徒の考案した物を大切に製品のパッ

ケージにも一工夫加えて商品完成へ挑んでいます。

入学希望者も減少傾向に歯止めがきかない現状ですが、こんな取組で生徒に夢を持って入学してくれれば良いかと考えて行動しています。遠方より入学希望者も有るのですが、女性の受け入れてくれる下宿先がなく、これも最近の問題点の一つであります。女性専用の寮なども課題と考えています。

最後に、同窓生の皆さんは郷土にお帰りの際は、海洋ブランドを宜しく願います。

復活上越支部

小川大三郎 (新20漁)

自分は、新20回(昭和43年度)漁業専攻科を卒業し焼津港を基地にする遠洋マグロ船に乗船し、平成元年11月丁度満40歳を迎えたのでマグロ船に区切りをつけ下船しました。

マグロ船は当時出漁すると1年の航海は当たり前でした。良質脂身のある南鮪を追って遙か南半球アフリカの最南端ケープタウンを基地にしておりました。日本とは風の吹き方が反対で、6、7、8月が冬期で漁の最盛期です。南緯45度の冷たい南風が吹いてきてそれに乗ってペンギンが泳いで来ます。見渡す限り海です。船の寝室に入ると、通学時、蒸気機関車に乗り、友と大いに語り合ったこと、部活(剣道)に励んだことが思い浮かびました。勉強はおろそかでしたが、校訓(質実剛健、進取力行、水産報国)だけは心の奥深く刻まれていました。

今の自分があるのも能生水産高校のお陰と感謝しております。鮪船を下船後、新潟港と両津港を結ぶ越佐航路で佐渡に物資を運ぶ貨物船に乗り平成21年61歳の誕生日を迎え退職しました。仕事柄、能水会新潟支会にお世話になっていましたが退職を機に地元の上越支部に加入したく上越の親しくしている先輩に相談したところ、ここ数年同窓会の親睦が実施されていないので、これを機に能水会上越支部を盛り上げ継続してもらいたいと要望がありましたので、自分は同世代の人達十人に相談し協力を頂き上越支部の総会を開催することになり平成25年3月30日、直江津駅前のホテルハイマートにおいて、午後4時受付、六時に総会を開始しました。遠方から東京支部、新潟支会、長岡支部、寺泊支部、青海支部、糸魚川支部、能生支部等の各役員、本部事務局により多数の会員、前校長先生、現校長先生の皆様からご出席を賜り、総勢68名参加のもと総会を盛大に終了することができました。ご参加頂きました皆様、協力して頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

これからの上越支部の為に若い人達から参加してもらいたい、仕事、商売、趣味、あらゆる面で協力しあう相互、親睦の上越支部に発展するように微力ながら頑張りますので同窓会の皆様のご協力宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、今回の総会実施にご指導頂きました事務局はじめ各支部の役員の方々に感謝申し上げます。

相撲部大会報告

相撲部監督 久保田和平

日頃から本校相撲部の活動に対しまして、ご支援ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。今年8月までに出場した全国大会の結果につきまして、ご報告いたします。

全国高校選抜大会団体準優勝

「第64回全国高校相撲選抜大会」が3月16、17日の両日、高知県立春野総合運動公園相撲場で行われ、団体戦で昨年の5位を上回る過去最高の準優勝に輝きました。



団体戦の予選を順調に勝ち進み、決勝トーナメントは1回戦を快勝し、2回戦から準決勝までは、2-1で勝ち上がりました。決勝は2連覇を狙う埼玉栄との対戦となりました。

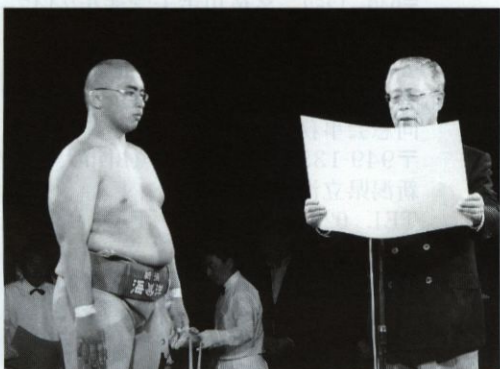
先鋒戦で佐藤崇(2年)がはたき込みで敗れましたが、中堅戦で西澤元康(2年)が押し出して勝って1-1としました。しかし、大将戦で松永久志(2年)が引き落としで惜しくも破れてしまいました。

個人決勝トーナメントには3選手が出場しました。その中で、西澤元康がみごと3位に入賞しました。

高校相撲金沢大会個人3位

「第97回高等学校相撲金沢大会」が5月26日、石川県卯辰山相撲場で行われ、団体戦2連覇を狙って先鋒に佐藤(3年)、中堅に西澤(3年)、大将に松永(3年)の高知大会準優勝メンバーで臨みました。

決勝トーナメント初戦は報徳学園に2-1で勝ち、ベスト16に進出しましたが、次の対戦で、今年度優勝校



の鳥取城北に3-0で敗退してしまいました。

団体予選3回戦全勝選手で争われた個人決勝トーナメントには3選手とも出場しましたが、高知大会で3位に入賞した西澤元康が、ここでも力を発揮し、3位に入ることができました。

会場には、保護者をはじめ、同窓生の方々からも応援に駆けつけていただき、心より感謝申し上げます。

北部九州総体(長崎県)

「平成25年度全国高等学校総合体育大会」(インターハイ)相撲競技が8月2日~4日に長崎県平戸文化センターで行われました。

団体戦は、予選を佐藤(3年)、西澤(3年)、阿部遼介(3年)、金井旺雅(2年)、松永(3年)の布陣で戦い3戦全勝で通過しました。しかし、決勝トーナメントでは、初戦で金沢市立工業に完敗し、ベスト32でした。個人戦決勝トーナメントでは、佐藤崇がベスト32、松永久志がベスト16という結果でした。

全日本ジュニア体重別相撲選手権大会

「第8回全日本ジュニア体重別相撲選手権大会」が、8月6日三重県伊勢神宮相撲場で行われ、100kg以上級で北信越予選会1位で出場した松永久志が、4位に入賞しました。



選抜高校相撲十和田大会

「第62回選抜高校相撲十和田大会」が8月15日、青森県十和田市相撲場で行われました。団体戦は、優秀16校決勝トーナメントに残りました。初戦は更級農業に快勝しましたが、次の鳥取城北戦に敗れベスト8に終わりました。個人戦は、佐藤と松永が決勝トーナメント戦に出場しましたが、両名ともベスト16でした。

今年度は、昨年に比べると実力を発揮しきれずに終わった試合もありましたが、同窓生の皆様の応援や激励により、高知大会での準優勝、個人3位そして金沢大会での個人3位という成績を残すことができました。今後も全国大会で活躍できるよう稽古に精進してまいりますので、ご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。

物故者名簿

19 製	本宮大丈夫 (新潟市)	H22.10.22
27 漁	渡辺 締三 (新潟市)	H23.秋
28 製	佐藤 逸郎 (松戸市)	H24.7
29 漁	亀田 儀平 (旧姓牛坊 新潟市)	H23.11.9
29 漁	和田 保 (糸魚川市田伏)	H23.8.11
31 養	宮腰 定治 (東京都八丈島)	H24.2.21
32 漁	福嶋 芳清 (三浦市)	H24.8.27
33 製	田原 正度 (糸魚川市大町)	H24.3.31
34 漁	市川 春久 (三浦市)	H24.3.23
36 漁	久保田義二 (糸魚川市筒石)	H25.1.14
37 製	伊藤 正義 (東京都)	H25.5.3
新2増	高嶋 和男 (旧姓二宮 上越市)	H24.3.2
新3製	山田 修一 (京都府)	H24.12.21
新3増	金井 裕幸 (長岡市)	H24.7.7
新3終了	加藤 順紀 (出雲崎町)	H23.7.2
新5漁	長崎 登 (横浜市)	H24.12.10
新5製	中嶋 芳郎 (東京都)	H24.7.3
新6漁	藤原加一郎 (旧姓田代 下関市)	H24.8.12
新7漁	笠原 怜 (糸魚川市鶉石)	H23.1.14
新8製	金子 武夫 (埼玉県)	H23.10.11
新9製	政所 道夫 (糸魚川市東寺町)	H24.10.25
新9増	倉又 勝 (糸魚川市中央)	H25.1.7
新10製	島田 栄吉 (千葉市)	H24.10.24
新11漁	宮川 喜久 (上越市)	H25.2
新12製	北林 弘行 (東京都)	H
新13増	磯谷 繁夫 (糸魚川市)	H23.12.26
新14漁	伊藤 龍 (旧姓池田 石川県)	H25.1.18
新14製	岡村 寅男 (南魚沼市)	H24.7.6
新18漁	斉藤 常男 (糸魚川市横町)	H24.1.22
新21製	関根 新治 (上越市)	H24.11.28
新23製	滝川 茂 (愛知県大府*市)	H24.12.16
新25増	澤田 利通 (糸魚川市)	H23.12.27
新30食	松尾 勉 (糸魚川市小見)	H24.8.15
旧職員	三上 弘 (千葉県柏市)	H24.10.30
旧職員	富井 文二 (上越市)	H24.9.21
旧職員	水澤 六郎 (糸魚川市能生)	H25.4.26

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

編 集 後 記

今年の夏は異常気象で真夏日・猛暑日が長く続き、またゲリラ豪雨等大変な夏でしたが、朝夕涼しくなり秋を感じさせる今日この頃です。皆様のご協力により日本海12号をお届けできることになり感謝しております。

さて、平成27年には北陸新幹線が開業します。市ではジオパークを全面に押し出し、交流人口の拡大を図るべく施策を実施しておりますが、新幹線が停車する糸魚川に高等学校以上の教育機関がありません。それで良いのでしょうか？市の掲げる教育プランは豊かな人間性の醸

成には欠くことの出来ない内容が充実していますが、18歳で終了します。その後は他の教育機関において学ぶこととなります。普通教育を学ぼうと思えば全国どこにもありますが、唯一この地から全国に発信出来る教育プランがあることを忘れてはなりません。

新潟県立海洋高等学校の拡充です。今、新潟県立大学が有りますが、その付属学科としての水産学部構想でもよし、専攻科の復活でも良いと思います。定員は20人で良い。但し、従来の船舶職員の養成だけにこだわるのではなく、水産、海洋全体を視野に入れても良いと思います。環境は申し分ない、施設は大学の設備に負けないほど充実しています。今や全国の水産・海洋高校が総崩れ現象を起こしている中、50年100年先の日本が危ういものにならなければと杞憂しています。

生徒は全国から集め、更に、近隣諸外国、特に東南アジア等からの留学生を集めても良いと思います。

21世紀は、食料、環境、エネルギーの世紀ともいわれていますが、この三つとも海と深く関わることになり、その条件も糸魚川市は十分に持っています。

豊かな国づくりは人材の育成があつてこそなし得る。その一翼は糸魚川でも担うべきではないだろうかと日々考えております。皆さんいかがでしょうか。

お願い

会報「日本海」への原稿及び広告掲載のお願い。

- ① 原稿 800字程度、一太郎、ワード等による場合にはフロッピー (SD、USBメモリ) または、事務局長Eメールに送付いただければありがたいものです。ご自身の写真も1枚お願いします。
- ② 広告 掲載規格は6.5cm×8.7cmとなりますが、既に掲載された広告を参考にしてください。掲載料金は1件10,000円となります。

会報「日本海」編集委員

広報委員長	S 5 i	佐藤 優
副委員長	S 1 1 B	富田 達治
委員	S 1 1 B	岡崎 辰三
(幹事) 委員	S 1 8 F	伊藤 清正
委員	S 2 1 B	田中 道夫
(写真) 委員	S 2 1 i	家崎 長治
(新) 委員	S 2 4 B	石井 順二

広報連絡先

〒949-1352 糸魚川市大字能生2447-7

TEL・FAX 025-566-4079

広報事務局 伊藤 清正

発行者 一般社団法人 能水会

同窓会事務局

〒949-1352 新潟県糸魚川市大字能生3040

新潟県立海洋高等学校 内

TEL 025-566-3155 FAX 025-566-4781

事務局長 渡辺 宏幸

事務局携帯 090-5547-8832

E-mail watanabe.hiroyuki@nein.ed.jp

海洋高校のホームページをご覧ください